



# 学習活動の手引き

Curriculum and Resources Guide

## 海外移住資料館



〈改訂版〉 Revised Edition





## あいさつ

海外移住資料館の教育プログラムでは博学連携のひとつとして、近隣の学校生徒及び県外からの修学旅行生徒が訪れて、日本の海外移住の歴史や移住者、日系人の生活について学び、さらに、各自の身近な地域における多文化共生についても学んでいます。そのため、当資料館では当資料館を活用して学習指導をする先生方が指導教案を作成する際のご参考になればと平成17年3月に「学習の手引き」を作成し、多くの先生方に活用していただいております。

その後、当資料館では学習教材としてカルタや紙芝居を作成したこと及び利用された先生方からのご意見も踏まえて、内容を更に充実した「学習の手引き」改訂版を作成いたしました。

本「学習の手引き」改訂版の作成に当たっては、初版同様、森茂岳雄先生（中央大学）及び中山京子先生（京都ノートルダム女子大学）を中心に多くの先生方にご協力いただきました。本手引きの改訂版の作成に当たりご協力いただきましたそれぞれの先生方に深く感謝申し上げます。



今後、より多くの学校指導現場において本手引きが活用されることを願うとともに、当資料館を活用した指導案を作成された先生方にはその指導案及びご意見等を当資料館宛にお寄せいただきさらに本手引きの充実を図っていきたい所存です。ご協力のほど宜しくお願いいたします。

平成19年3月

海外移住資料館館長

# Contents

□ あいさつ	海外移住資料館館長	1
□ 移民を授業する	森茂岳雄	3
—海外移住資料館を活用した授業づくり—		
□ 学習活動利用マップ		4
 <b>活動 1</b> 小学校高学年・中学校		
海を渡る日系移民		6
 <b>活動 2</b> 小学校高学年・中学校		
ハワイのサトウキビ農園で働いた日本人移民		8
 <b>活動 3</b> 小学校高学年・中学校		
海外に移住した人々 —五十嵐みよしさん—		10
 <b>活動 4</b> 小学校高学年・中学校		
語り継がれてきたニッポン		12
 <b>活動 5</b> 小学校高学年・中学校		
移住地に根づいたニッポンの産業		14
 <b>活動 6</b> 中学校・高校		
人の移動 —内なる国際化—		16
 <b>活動 7</b> 高校（中学校でも実施可能）		
トランクの中に入れて持って行ったものは何か		18
—携行品から移民の思いや希望を読み説く—		
 <b>活動 8</b> 高校（中学校でも実施可能）		
ケータイ（携帯電話）を使ってカルタづくり		20
 <b>活動 9</b> 高校		
第二次世界大戦と日系人		22
 <b>活動 10</b> 小学校高学年・中学校		
紙芝居・カルタで学ぼうニッケイ		24
 <b>活動 11</b> 中学校～		
紙芝居・カルタでビンゴ		26
 <b>活動 12</b> 中学校～		
ブラジルに渡った日系移民について調べよう		28
□ 移民カルタを使ってみよう		30
□ 紙芝居を使ってみよう		32
「海を渡った日本人」「ハワイにわたった日系移民」 「弁当からミックスプレートへ」「カリナのブラジルとニッポン」		
□ 定点解説キットの紹介		34
イグアス／サトウキビ畑の生活／仕事／ミックスプレート／宝さがし／農作業具／ スーツケース／日系人の食卓／日系商店・萬屋／移住物語／花と製品あてゲーム		
□ 海外移住資料館ワークシート		36
□ 移民関連年表		38
□ 日系移民に関する図書の紹介		40

※青 は資料館見学を想定したもの、緑 は移民カルタや紙芝居などの教材のみの活用を想定したものを示す。

# 移民を授業する

## — 海外移住資料館を活用した授業づくり —

森茂 岳雄

現代は、「移民の時代」とも呼ばれています。国連人口部によれば、世界中で国境を越えて移動する人々は、2005年には1億9,100万人に達し、地球上で自国以外に住んでいると推計される人口は世界の人口の30人に1人の割合になってきています。このようなグローバルの人の移動の増大は、必然的に一国内の多民族化・多文化化を生み出しています。グローバル化と多文化化が相互に連動して進行しているのが今日の世界における社会的現実なのです。

このような移民の加速化の動きは、日本においても顕著になってきています。法務省の発表によると、2005年末の我が国の外国人登録者数は約201万人となり、初めて200万人を突破し、総人口の1.57%に達しています。

一方、逆の視点から見ると、日本もつい半世紀前までは移民の送り出し国でした。日本は、開国早々の百数十年前、ハワイや北米に多くの移民を送りました。その後も、中南米、東南アジア、中国大陸等へと多くの日本人が移住しました。戦後も、農村の次三男問題や自己の潜在能力を広く海外に求めた青年の移住が続き、そのような歴史的経緯の中で、現在も250万人以上の日系人が海外に生活しています。

しかし、これまで日本の学校教育において、日本から海外に出ていった日本人移民や、日本に移民してきた外国人の歴史的経緯や現状について、教科書を始め授業の中で取り上げられることはほとんどありませんでした。近代日本の黎明期に多くの日本人が海外に移住した事実、彼らとその子孫の現地での苦労や貢献、文化や現状、そして現在日本に逆移住してきている日系人の現状や問題を立場を変えて共感的に学ぶことは、グローバル化と多文化化が連動して進行するこれからの社会を生きる子どもたちにとって「共生」に向けての資質を養う上で意義があると考えます。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されています。このような地球的規模で相互依存を増しつつある21世紀の世界の中で、グローバルな価値の実現をめざして行動できる地球市民としての資質に加え、一方では多文化社会の中で異なる文化を受容し、尊重し、

それとの共生に向けて行動できる市民としての資質の育成の両方が求められています。日系移民についての学習は、ヒトの国境を越えたグローバルな移動とそれに伴う世界的な規模での相互依存関係と、一国内における多文化の共生を考える格好のテーマです。また、移民についての学習は、今日の多文化社会における人権や市民権のあり方といった民主主義の基本原則を学ぶシティズンシップ教育の格好の機会ともなりえます。

JICA横浜海外移住資料館は、南北アメリカを中心とした日本人の海外移住の歴史および移住者と日系人の現在をテーマにした博物館です。ここには日系移民に関するさまざまな資料が収集、保存され、展示されています。これらの資料は教材としてもさまざまな可能性を持っています。また、同館では学習活動に役立つよう、「移民カルタ」や「紙芝居」などの独自の教材も作成しています。

本『学習活動の手引き』では、主に学校現場の先生方の参考になるように、海外移住資料館の展示およびカルタや紙芝居を活用したいくつかの授業を構想してみました。現在「学習指導要領」においても、総合的な学習の時間や社会科の指導計画の作成に当たって配慮する事項の一つとして、博物館との連携や活用が明記されています。学校の先生方はもとよりNGO/NPO関係の方々への授業づくりやワークショップの際の参考にしていただければ幸いです。



# 学習活動利用マップ

移民について学習したい

海外移住資料館へ  
見学に行く



事前学習・見学・  
事後学習の展開例を  
知りたい

ていねいに  
事前学習をする

本や文献を  
活用する

「学習活動の手引き」  
の参考図書一覧を  
参照…………… P.40

予備知識を  
もつ程度に  
事前学習をする

移民カルタ・  
紙芝居の活用



移民史全般の  
概要の整理をする

地域に集中して  
学習をする

■移民カルタ…………… P.30  
■紙芝居  
『海を渡った日本人』…………… P.32



■紙芝居  
「弁当からミックスプレートへ」 P.33  
「ハワイにわたった日系移民」 P.32



海外移住資料館へ  
見学には行けない

移民カルタ・  
紙芝居を  
活用したい

移民カルタ・紙芝居  
の活用をした学習活  
動例をみたい

「学習活動の手引き」を見る



### 資料館見学を行う学習活動

- 活動①: 小学校高学年・中学校  
海を渡る日系移民 ..... P.6
- 活動②: 小学校高学年・中学校  
ハワイのサトウキビ農園で働いた日本人移民 .. P.8
- 活動③: 小学校高学年・中学校  
海外に移住した人々 —五十嵐みよしさん— ..... P.10
- 活動④: 小学校高学年・中学校  
語り継がれてきたニッポン ..... P.12
- 活動⑤: 小学校高学年・中学校  
移住地に根づいたニッポンの産業 ..... P.14
- 活動⑥: 中学校  
人の移動 —内なる国際化— ..... P.16
- 活動⑦: 高校(中学校でも実施可能)  
トランクの中に入れて持って行ったものは何か... P.18  
—携行品から移民の思いや希望を読み説く—
- 活動⑧: 高校(中学校でも実施可能)  
ケータイ(携帯電話)を使ってカルタづくり ..... P.20
- 活動⑨: 高校  
第二次世界大戦と日系人 ..... P.22

## 海外移住資料館へGO!

- ・ ボランティアさんのお話
- ・ 展示見学および学習活動



### 紙芝居

「カリナのブラジルとニッポン」 ..... P.33



事後学習を  
充実させたい

カルタ・紙芝居を  
再度用いて振り返る  
..... P.30~P.33


まとめの作品をつくる  
(ぜひ成果をお知らせください)

### カルタ・紙芝居を用いた学習活動

- 活動⑩: 小学校高学年・中学校  
紙芝居・カルタで学ぼうニッケイ ..... P.24
- 活動⑪: 中学校  
紙芝居・カルタでビンゴ ..... P.26
- 活動⑫: 中学校  
ブラジルに渡った日系移民について調べよう .. P.28

「学習活動の手引き」を見る

# 海を渡る日系移民

Key word  歴史的経験・人の移動・多文化社会・日本にいる日系人

## 1 展示および資料館との関連

常設展示の証言映像

## 2 教科領域との関連性

- ・総合的な学習の時間
- ・小学校6年生社会科「日本と関係の深い国々」

## 3 実施時期および総時数

時 期：いつでも可（単元や活動にあわせて）  
 時 数：4時間（指導形態に合わせて弾力的に運用）＋見学

## 4 単元（活動）目標

- (1) 日本から海を越えて外国へ移民として出ていった人々の歴史的経験を理解し、その苦労や移民先の国や地域での貢献を考える。
- (2) 現在日系外国人労働者として二世・三世が来日し、日本の多文化社会を構成している様子を知り、かれらが感じている問題点について考え、これから自分達がどうしていったらよいかを考え実践する姿勢をもつ。
- (3) 人々が国境や海を越えて移動しようとする理由について考える。



## 5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本活動は、移民全般について総合的に学ぶことを意図している。日本から海外へ渡った移民とその歴史、そして現在日本にUターンしてきている日系人の様子を理解し、人が移動する理由を考えることをねらいとしている。

従来、学習内容に付加的に扱われていた「移民」についての学習を、学習内容の中心円に置き換え、右図のように「移民」の視点から学習を構想するとどうなるか。歴史、要因、経済、文化、人権、地域、政策、グローバル化といった学習を「移民」の視点から展開する可能性が広がる。

資料館の展示は南北アメリカ（ハワイを含む）に渡った移民史を包含していることから、移民について総合的に学習する事ができる。資料館見学を通過的な見学に終わらせずに移民に関する学習の契機とし、事後学習を充実させ、グローバル時代の人の移動とそれに付随する課題についてじっくり考えさせたい。



図:「移民」の視点からの教材開発の広がり



## 6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点・支援
事前学習	<p><b>1 地域にはどんな外国人が暮らしているのか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在日外国人・留学生・海外からの駐在員・日系外国人など</li> <li>・強制されて来た人、進んできた人、数年で帰る人など多様な人がいるけれど、「ニッケイ」とはどんな人たちなのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューカマーと呼ばれる人々の多くは日系が多いことから日系に焦点化をしていく。地域の外国人登録者数データを作成して資料を示す。</li> </ul>
資料館見学	<p><b>2 日系移民はどのような歴史的経験をしてきたのか資料館で調べよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本からなぜこんなにたくさんの人々が海外に移住したのか。</li> <li>・ハワイやアメリカ本土での生活の様子が分かった。</li> <li>・日系人だからという理由で差別されるのはひどい。</li> <li>・戦争中に兄弟が敵味方に別れるなんてつらいだろうな。</li> <li>・日系人は外国で文化を守ったり混ぜ合わせたりしてきたんだ。</li> <li>・映像に出てくる人々の言葉の中に力強さを感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料館見学に行けない場合、紙芝居やカルタを活用する事ができる。</li> </ul>
事後学習	<p><b>3 日本に来ている日系の人に話を聞こう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉や文化が違う「外国人」として苦労しているんだ。</li> <li>・将来日本に残るかどうかわからないから子どもの教育も難しいらしい。</li> <li>・日系人だということで差別されていたなんておかしい。</li> <li>・祖父母の故郷の日本をどう思っているのかな。</li> </ul> <p><b>4 日系の人たちが困っている事についてどう考えたらよいか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとコミュニケーションをとる方法を考えるべき。わたしたちからも積極的になるべきだと思う。</li> <li>・仕事が忙しくて地域社会で活動していないのは私の家も実は同じだから、一緒に解決できないかな。</li> <li>・学校にいる日系の子に困っていることがないか聞く。</li> <li>・来年入学してくる日系の1年生の保護者のために、学校案内を日系の子と一緒につくろう。</li> </ul> <p><b>5 なぜ人は海を渡って移動しようとするのだろう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい生活や環境を求めるから。</li> <li>・望まないけれども強制的に移動させられることもある。</li> <li>・新天地に夢や希望をもって自ら移動する。</li> <li>・旅行ではなく、自分もいつか外国で暮らすだろうな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話をさせていただく方とよく打ち合わせをし、子どもたちに投げかけたい話題を共通理解しておく。苦労話を聞くだけでなく、彼等の地域社会での活動の一端も見せたい。</li> <li>・これまで理解したことをもとに、自分の言動、地域社会で見られる姿についてふりかえり、これからどうしたらよいか、自分のこととして考えるようにする。</li> <li>・人の移動には様々な要因がある事を考えさせ、日系移民の歴史にはどのような要因があったのか、現在の移動の要因についても考えさせたい。</li> </ul>

## 7 評価


- ・資料館を訪れたり、日系人の方からの話を聞いたりする活動に主体的に取り組んだか。
- ・日系移民の歴史的経験や現在の在日日系人の社会的状況を理解できたか。
- ・資料調査やインタビューを実施し、学んだことや考えたことを表現することができたか
- ・多文化社会に生きる自分のあり方を考え、どうしていったらよいか考え実行しようとする。

## 8 授業づくりのための参考資料

- ・40頁参考図書一覧参照

(中山京子)

# ハワイのサトウキビ農園で働いた日本人移民

Key word  ハナハナ・プランテーション・文化変容・ミックスプレート・日系移民の服飾

## 1 展示および資料館との関連



- ・定点解説キットの活用
- ・ハワイプランテーション労働の様子（写真①）
- ・日系人の生活における服装文化の変遷
- ・日系人の食卓から「ミックスプレート」（写真②③）



## 2 教科領域との関連性

- ・小学校6年生社会科 国際理解単元
- ・総合的な学習の時間
- ・中学校 社会科

## 3 実施時期および総時数

- 時 期：いつでも可（単元や活動にあわせて）  
 時 数：単元や指導形態に合わせて弾力的に運用する。

## 4 単元（活動）目標

- ・ハワイに渡った日本人のプランテーション労働の様子を知る。
- ・当時の服装を身につけるなどして、その労働状況を共感的に理解する。
- ・外国に移住した日本人の環境にあわせた文化変容を理解する。

## 5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本活動は、様々な展示の中から部分的にいいと取りあげて、ハワイへ移住した人々の生活の一部にせまろうとするものである。移民全般の歴史的経験を総合的に理解する一方で、地域的、時期的に部分的にとりあげることで、より深く学習を展開することができる。また、遠足や社会科見学で短い時間で訪問する際には、部分的にとり扱うことの効果も大きい。

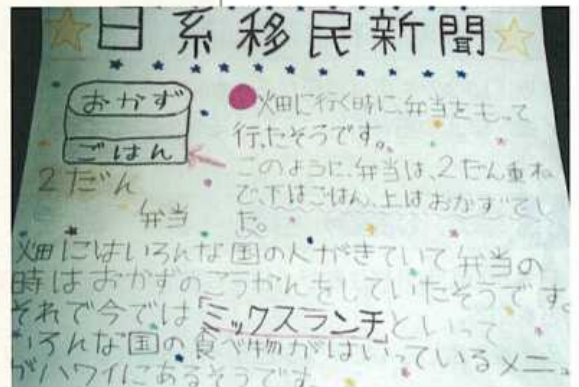
ハワイに移住した日本人は、暑さと強い陽射し、サトウキビの葉のとげから身を守るために、持参したかすりの着物を改良するなどして、独特な農作業着を作り出した。実際に身につけてみると、暑く、重さも感じるものである。子どもたちが身につけて体験することで、その重労働を共感的に理解することができよう。そのために、用意されているアクティビティキットの農作業着を展示の前で着て、展示に迫っていくようにしたい。

展示場の写真パネルは平面的なものだが、自らが同じ服装をしてパネルの前に立つことで写真や周囲の展示に視点が広がる支援となる。この展示空間には2段組の弁当箱もある（農作業着を着た人形の足もと）。これはプランテーションの労働に持参したもので、各国から来た移民とおかずの交換などを経ることを経て、弁当の上の段の総菜を入れる部分が、多国籍メニュー化できるようになる。これは展示場後半の「移民の食事」にみる「ミックスプレート」の原点である。このように、入り口付近の展示場での体験をすることにより、子どもたちは、「ハワイの移民」「持ち込んだ文化の地域環境にあわせた変容」に気が付くようになる。

異なる環境での生活を共感的に理解したり、文化変容の過程を理解したりすることは、地域社会が多文化化する中で、国際理解や異文化理解の重要な視点である。その意味で、この活動は具体的に文化変容をとらえる視点を児童生徒がもつことを支援するものである。

## 6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点・支援
事前学習	<p>■見学前:フォトアクティビティ</p> <p>この服装はどこ地域で何をするための服装だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑仕事、寒いところ、日本の農村。</li> <li>・写真の感じから昔の様子。</li> <li>・理由は・・・。</li> </ul>	見学前に連絡をし、写真などを借りるとよい。下記の参考文献を用意するのも良い。
資料館見学	<p>■海外移住資料館を見学しよう</p> <p>1 ハワイプランテーションでの農作業着だったのか!</p> <p>2 実際に着てみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たびや脚ほんは何のためにつけていたのだろう。</li> <li>・ハワイは暑い所なのに、なぜこんなに厚着をするのか。</li> <li>・体をしっかり守っているのはなぜか?</li> </ul> <p>3 説明パネルやボランティアさんの話からわかることは?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サトウキビ畑の労働は大変だったこと。</li> <li>・憧れてハワイに来たが、待っていた生活に落胆したこと。</li> <li>・プランテーションでは農作業のことをハナハナと呼び、食べることをカウカウと呼んでいた。</li> <li>・農園には、フィリピン、ポルトガル、スペイン等からきた移民もいて、交流があった。</li> <li>・アルミの二段重ねの弁当箱が、今のハワイのメニューにあるミックスプレートのもとになった。</li> </ul> <p>4 他の展示を見学しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイに移民した人の生活が分かるかな。</li> <li>・日本移民が持ち込んだ文化が、その土地でどのように続いたりしたのだろうか。</li> <li>・盆ダンスを踊っているのは誰だろう。</li> </ul>	<p>実際に着てみることから気づく視点を大切に、学習を深めていきたい。ここは、ボランティアに支援を頼んでもよいし、授業者がリードをすることもできる。</p> <p>各自の展示見学に入る前に視点を明確にすることで、具体的な学びが期待できる。一方で自由な視点での学びも大切にしたい。</p>
事後学習	<p>■見学後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発見したことをまとめよう。</li> <li>・日本に移民してきた人たちが作りだした新しい文化はないかな。</li> </ul>	



## 7 評価


- ・ハワイ日本人移民のプランテーション労働の様子を知ることができたか。(ノート、発言)
- ・当時の服装を身につけるなどして、その労働状況を共感的に理解しようとしたか。(発言、行動)
- ・外国にでかけた日本人の環境にあわせた文化変容を理解する視点を持ち、具体的に理解することができたか。(ノート、発言、行動)

## 8 授業づくりのための参考資料

- ・坂井俊樹監修『日本の歴史—明治維新から現代(5) 国境をこえた人々の歴史』(ポプラ社、1999年)
- ・全米日系人博物館HPより巡回展示「弁当からミックスプレートへ」解説 (<http://www.kustos.ac/janm>)
- ・バーバラ・F・川上著、香月洋一郎訳『ハワイ日系移民の服飾史—絣からパラカヘー』(平凡社、1998年)

(中山京子)

# 海外に移住した人々 — 五十嵐みよしさん —

Key word  個人史・移民あっせんポスター・ホレホレ節・共感的理解・作品づくり

## 1 展示および資料館との関連

・五十嵐みよしさんのインタビュービデオ

<神戸港で送られた歌>

「行け行け同胞海越えて 遠い南米ブラジルに  
御国の光輝かす 今日の船出の勇ましさを 万歳万歳・・・」

<船に乗ってから>

「渡南の翼、千万里 見よ雲低き南米や 紫嵐乱るる海原を わが同胞は進み行く  
アマゾン川の水清く アンデス山の雲遠く 蒼々暮るる緑土の地 鏃とる我を夢見ける  
ああ南米の開拓者 アフリカ丸よ 望みあれ 行く手のかたを眺めては 六百健児の意気高し」

<トメアスーについて>

「行こかサンパウロ 帰ろかジャポン ここが思案のパラー州  
聞いて極楽 来て見りゃ地獄 落ちる涙はアカラ川」

・移住者募集のビラ、広告



▲五十嵐みよしさん

## 2 教科領域との関連性

- ・小学校6年生社会科 国際理解単元
- ・総合的な学習の時間
- ・中学校 社会科

## 3 実施期間および総時数

時 期：いつでも可（単元から活動にあわせて）

時 数：単元や指導形態に合わせて弾力的に運用する。



▲技術移住者あっせんのポスター 資料提供：広島県立文書館

## 4 単元（活動）目標

- ・日本からの海外移住者が、様々な夢や希望をもって海外に移住したものの、その移住地で多くの苦勞をしながら、生活したことを知る。
- ・五十嵐みよしさんのインタビューから移住者の当時の気持ちを共感的に理解する。

## 5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本活動は、展示の中から「人物」に視点をあてて資料館見学を進めることができるようにすることをねらっている。五十嵐みよしさんのインタビュー映像をもとに、海外移住を決意したときの願いや、渡航してからの苦勞、その地での社会的貢献などを知り、移民の生活や心情を理解させたい。

日本の海外移住者の多くは、出稼ぎや開拓など、生活の安定を求めて海外へと渡っている。戦前の北米への移住者は、農業や漁業での労働をし、日本へ送金したり、まとまった貯金をもって帰国していた。

高額の賃金を得られるということで、その成功の様子を口伝えて聞いた若者達は海外に旅立っていったのである。また、南米への移民は1899年のペルー、1908年のブラジルへの移住などで本格的に始まり、1924年のいわゆる「排日移民法」の制定によりアメリカへの移住が困難になった後、増加し、延べ18万8000余人が渡っている。こちらの場合の多くは最初から農業による定住を意図していて、その多くは家族移住者であった。

実際に移住してみると、事前の話とは違っている部分も多かった。その中で日本の海外移住者達は、努力を積み重ね、その土地で活躍していった。現在でも、南米の移住先となった都市では日系人の商工会議所などがあり、大きな事業を行っている人がいる。

資料館の展示の中では、海外移住者のインタビューで話していることや、その人のプロフィールをみることで、移民した人と個人の思いや苦勞を共感的に知ることができると思われる。

## 6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>五十嵐みよしさんのプロフィール紹介。 ・五十嵐みよしさんのインタビュービデオを見る。</li> <li>みよしさんの気持ちが、どう変化していったのかを考える。 「聞いて極楽 来てみりゃ地獄 ここが思案のパラー州」とはどういう意味だろうか、考えを出し合う。 ・行く前は、すごくいいところだと思っていた。 ・行ってみたら、大変だった。 ・思案ってなにを考えたのだろう。 ・そのあと、移住した人はどうしたのだろう。</li> <li>「海外移住者が行きたいと思ったわけ（聞いて極楽）」 「行ってみての苦労（来てみりゃ地獄）」「移民した人がどうなったか」を見学の視点にすることを確認する。</li> </ol>	<p>ビデオの中で語られる言葉の一つ一つをていねいにとりあげて、心情にせまりたい。</p> <p>分からない言葉や背景については、補足をする。</p>
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> <li>展示物の中から、「海外移住者が行きたいと思ったわけ（聞いて極楽）」 「行ってみての苦労（来てみりゃ地獄）」がわかるものをさがす。 ・移民募集のビラ、広告 ・「呼び寄せ」についての説明 ・インタビュー記録 ・トランクの中身 ・映像</li> <li>展示場に流れるインタビュービデオの中から一人を選び、海外に移住した人たちがどういう人だったのかを調べ、記録する。</li> </ol>	移民募集のビラからうけるイメージについてポスターなどを示しながら具体的に質問する。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>調べたことや分かったことを、新聞・レポート・作文・ポスターなどの作品にまとめる。</li> <li>出来あがった作品を展示し、見合いながら意見交換をする。</li> </ol>	

## 7 評価

### 事前学習

- ・インタビュービデオから日系人の経験について想像し、見学への意欲をもつ。（ノート、発言）

### 見学

- ・「聞いて極楽」「来てみりゃ地獄」の証拠を探すという視点で、資料館展示を見学することができたか（見学ノート、メモ）
- ・インタビューの聞き取りを通して、その人がなぜ海外に渡ったのか、その地での苦労や業績について理解できたか（見学ノート、メモ）

### 事後学習


- ・絵や写真などを有効に活用しながら、見学で分かった内容をまとめることができたか。

## 8 授業づくりのための参考資料

- ・「ホレホレ節」  
「いこかメリケン 帰ろうかジャパン ここが思案のハワイ島」  
「日本でるときゃよ ひとりででたが 今じゃ 子もある孫もある」  
山中速人、藤井桂子「フィールドワークとしてのライフヒストリー研究の展開と課題ーカウアイ島（ハワイ）日系人のライフヒストリー調査プロジェクトを事例としてー」『JOURNAL OF POLICY STUDIES』（総合政策研究 NO.13 2002年9月）pp.67-90.
- ・牛島秀彦「いこかメリケン帰ろうかジャポニーーハワイ移民の100年ー」（サイマル出版会、1978年）

（岸野存宏）

# 語り継がれてきたニッポン

Key word  風土・習慣・文化保持・文化変容

## 1 展示および資料館との関連

- ・われら新世界に参加す「移住者の家庭生活」コーナー・刺身のレプリカ（写真①）
- ・ハワイの火山岩の石臼（写真②）
- ・ガーデナ（アメリカ、カリフォルニア州）の仏教会のハッピー（写真③）
- ・カナダのワイン樽の太鼓（写真④）



## 2 教科領域との関連性

- ・小学校6年生社会科 国際理解単元
- ・総合的な学習の時間
- ・中学校 社会科

## 3 実施時期および総時数

- 時 期：いつでも可（単元や活動にあわせて）  
 時 数：単元や指導形態に合わせて弾力的に運用する。

## 4 単元（活動）目標

- ・日本からの移民が、移住先の環境の中で、日本の生活習慣や食文化を工夫・維持して生活してきたことに気づく。
- ・資料館を意欲的に見学し、自ら見つけた課題について表現することができる。

## 5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本活動は魚の刺身を食べる日本の食文化が、海外移住者の食卓でもみられたことをはじめとして、移住していった人々が故郷の生活習慣や食文化を維持しようとした心情にせまろうとするものである。

移民がはじめた19世紀後半は、輸送機関や冷凍技術は未発達であり、その土地のものを利用することが一般的であった。したがって、海外に移住した人々は、今まで慣れ親しんできた生活習慣や文化をそのまま維持することは難しかった。展示されている刺身を例に挙げるならば、この当時大根はハワイや南米には存在していないので、ツマとして使用することはできない。しかし、海外に移住した人々は、その土地のものを生かしながら刺身を作り、大根のツマの代わりにキャベツを敷いて食卓に並べたのである。

また、展示されているハワイの臼も木製ではなく、火山岩でできている。そこには、遠い異国の地でも、祖国でなれ親しんできたものを食べたいという海外移住者の願い、そして、その土地のものをうまく利用するという知恵と工夫が表れている。そしてこうした願いを持つのは、どこの国の海外移住者でも、いつの時代でも共通しているものである。

したがって、地域によって文化を維持するためのものが入手できないことを知ることや、海外に移住した人々が、その土地のものを利用しながら自分たちの文化を維持しようとした心情について考えることは、これからの国際理解や異文化理解の重要な視点である。

## 6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>■移住者の家族生活の中の「刺身の写真」を見て、気がついたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大根ではなくキャベツを敷いたのはなぜだろうか。</li> <li>・日本人移民が、風土や環境の違う移民先の国でも、その土地のものを利用しながら日本文化を大切にしようとしていた。</li> </ul>	<p>今の日本の「刺身の写真」を、出して比較してもよい。 インタビュー資料で補足をする。</p>
資料館見学	<p>1 実際の展示品の中から、移住者たちがなれ親しんだ日本の文化を維持しようとしたことがわかるものをさがす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を記録する。</li> <li>・見つけたものをスケッチする。</li> <li>・デジタルカメラで撮影する。</li> </ul> <p>2 見つけたものを報告し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイでは火山岩を使って石臼を作っていた。</li> <li>・カナダではワイン樽を使って太鼓を作っていた。</li> <li>・アメリカの日系人が着ていたハッピをみつけた。</li> <li>・盆踊りの写真があった。「Bon」とTシャツに書いてあった。</li> <li>・商店に並んでいる調味料には日本のものがいくつもあった。</li> <li>・「家庭生活」のコーナーには、日本からもちこんだものがあった。</li> <li>・インタビュー画像からの言葉。</li> </ul> <p>3 友達の発表したことをもとに、もう一度見学をする。</p>	<p>根拠を大事にしながら、発表するようにする。 記録は写真の活用なども考えられるが、できるだけ筆記・描写による記録をし、詳細まで見ることをすすめたい。</p> <p>資料館にて用意されているワークシートを活用することもできる。</p>
事後学習	<p>■わかったこと、感じたこと、もっと知りたくなったことを新聞や作文、レポートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本にきている外国の人が、出身国の生活習慣や文化の維持をしようと工夫しているものを探してみよう。</li> </ul>	<p>地域の住民で外国の人にインタビューに行ったり教えてもらうよう環境づくりをする。</p>

## 7 評価

### 事前学習

- ・刺身の違いから、移民の人々の生活を想像し、日本から離れた異文化の地でなれ親しんだ文化を大切にしながら暮らしている人の気持ちを想像することができたか。（ノート、発言）

### 見学

- ・移住先のを活かして祖国の文化を維持しようとしたものを探しながら資料館を見学し、見つけることができたか。（見学ノート、メモ）
- ・展示物から見つけたものを記録することができたか。

### 事後学習

- ・絵や写真などを有効に活用しながら、移住者の日本文化を継承しようとする努力について、新聞などにまとめることができたか。

## 8 授業づくりのための参考資料

- ・浅井易「移民のレストランーサイミンから探る日系人の移動と出会い」後藤明他編『ハワイ研究への招待ーフィールドワークから見える新しいハワイ像』（関西学院大学出版会、2004年）

（岸野存宏）

# 移住地に根づいたニッポンの産業

Key word  海外移住者の貢献・産業・食文化・新聞づくり

## 1 展示および資料館との関連

- ・われら新世界に参加す「移住者の家庭生活」コーナー 日の華酒、醤油の瓶（写真①）
- ・南米の野菜（たまねぎ、みょうが、しいたけ、メロン、スイカ）
- ・まつり
- ・将棋

## 2 教科領域との関連性

- ・小学校6年生社会科 国際理解単元
- ・総合的な学習の時間
- ・中学校 社会科

## 3 実施時期および総時数

- 時 期：いつでも可（単元や活動にあわせて）  
 時 数：単元や指導形態に合わせて弾力的に運用する。

## 4 単元（活動）目標

- ・意欲的に見学し、日系移民が、移住地の文化や産業発展に貢献したことに気づく。



▲写真① 外国で販売されている醤油の瓶

## 5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

「醤油」という日本の食文化は、海外移住者の手で南米に持ち込まれ、現在ではその地に住む人々の味覚に合わせたものが売られるようになっている。本活動では、このことを通して、日本からの海外移住者が持ち込んだものが、その土地の人々の生活に浸透していたり、地域の産業へ貢献してきたことについて学ぶことを目的としている。

南米における日本人移民は、最初から農業による生活を意図していた人が多かったので、野菜や香辛料の種や苗の準備、農業技術の習得などについては、他の地域への移住よりも恵まれた環境にあった。しかし、日本とは異なる土地環境で植物を育てていくことは、多大な困難があった。

今回、導入の事前学習に取り上げた「醤油」は日本の食文化において欠かせない調味料である。「おふくろの味」という表現もあるように、多くの人にとって生まれ育つ中で経験してきた味への愛着は強いものであり、日本人移民の中でも同様であったことは想像できる。醤油の材料は大豆、小麦、麹菌であるが、南米にもともとあった大豆は、油をとるためのものが主流であり、醤油造りには適していなかった。その中で、品種改良に取り組んだり、南米の主食となっているトウモロコシを材料に加えたりして、醤油を作り出していったのである。

現在では、醤油はブラジルをはじめとした南米各国でスーパーにて売られている。「さくら醤油」など現地の生産メーカーもある。また、食堂などにも醤油差しが置かれているなど、食文化として受け入れられている。つまり、日本人移民によって持ち込まれた日本の食文化が、現在の南米の国々の食文化に影響をおよぼしているのである。そして、こうした記述は、青年海外協力隊経験者のホームページからも見つけることができる。

また、こうした学習をすることで、館内の展示をその背景を想像しながら見るができると思われる。そして、海外移住者やその子孫が自分のルーツとなる文化を維持していきたいという気持ちを共感的に理解することや、文化の広がりや変容の過程について理解することは、多文化社会が進展する地域社会に生きる児童生徒に大切なことである。



## 6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>■現代の「外国の醤油の瓶」を見て、気がついたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうして、海外に醤油の瓶があるのだろうか。</li> <li>・ 瓶のラベルの模様や言葉に注目してみよう。</li> <li>・ 当時、海外移住者たちが持ち込んだ食文化が、海外に浸透していることに気付かせる。</li> </ul>	南米への移民が(1)最初から農業を目的として入植したこと、(2)大豆も現地のを品種改良して醤油生産に合わせたものを作り出していったこと(3)日本では使わないトウモロコシが材料に使われていること(4)今では現地に醤油の会社があること、(5)南米の食卓に醤油が普通にならんでいることなどを補足する。
資料館見学	<p>1 実際の展示品の中から、「日系移民が持ち込み、現地の生活や産業に根づいていると思うもの」をさがす。</p> <p>2 見つけたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日の華酒、さくら醤油の瓶（写真①）</li> <li>・ 南米の野菜（たまねぎ、みょうが、しいたけ、メロン、スイカ）</li> <li>・ まつり</li> <li>・ 将棋</li> </ul> <p>3 友達の発表したことをもとに、もう一度見学をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティアさんにインタビューをしたり、説明してもらおう。</li> <li>・ ○○○は日系人が持ち込んだ物だけれど日系人ではない人も使うのだろうか。</li> <li>・ 野菜展示コーナーで日本から持ち込まれた野菜について探そう。</li> </ul>	博物館の見学で、その展示品の場所、時代をメモしておくが良い。
事後学習	<p>■詳しく調べてまとめよう。</p> <p>(1) 資料館で発表し合ったものが、今でもその国にあるかを調べる。</p> <p>(2) 日本人移民が持ち込んだことが起源となった文化のうちの一つについて詳しく調べて、新聞にまとめる。</p> <p>すし（アメリカ、中南米） 野菜（南米）など。</p>	

## 7 評価

### 事前学習

- ・ 醤油がなぜ海外にあるのかを考えることができる。（ノート、発言）

### 見学

- ・ 日本人移民によって持ち込まれたものをルーツとし、現地の文化や産業に根づいているものを探る活動をし、具体物を見つけたことができたか。（見学ノート、メモ）

### 事後学習

- ・ 資料館で立てた予想を確かめるために調べ学習を進められたか。
- ・ 絵や写真などを有効に活用しながら、世界に広がった日本文化について調べて、新聞をまとめることができたか。

## 8 授業のづくりのための参考資料

- ・ 世界各地にある（特に南米）醤油の瓶

（岸野存宏）

# 人の移動 — 内なる国際化 —

Key word  国際化・多文化共生・移民・外国人労働者・パネル・レポート

## 1 展示および資料館との関連



・日系人研修生との交流（自己紹介、ゲーム）  
（写真）

◀ 日系人研修生との交流

## 2 教科領域との関連性

- ・ 中学校 社会科
- ・ 選択教科社会科
- ・ 総合的な学習の時間

## 3 実施時期および総時数

- 時 期：いつでも可（単元から活動にあわせて）
- 時 数：9時間（見学6時間を含む）

## 4 単元（活動）目標

- ・ 現在進行中の日本の多民族化について、横浜のフィールドワークを通して知る。
- ・ 外国へ移民として出ていった人々の歴史的経験を理解し、その苦労や功績を考える。
- ・ 日系外国人労働者として二世三世が来日し、日本の多文化社会を構成している様子を知り、彼等と交流する体験を通じて、内なる国際化、多文化共生の取り組みについて考える。


## 5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

現在、日本で暮らしている外国人登録者だけでも200万人を越え、全人口の1.57%にもなっている。それにともない、1980年代以降来日した中国人やブラジル人、フィリピン人などの出身者は、かつて外国人の大部分をしめた在日韓国・朝鮮人の人口をおいぬき、外国人の約7割におよんでいる。現在、外国人の定住化にもなっており、医療、保険、教育、住宅などの問題が生じてきている。彼らと共存する意見が普及する一方で、外国人に偏見をもち、排除しようとする動きはなくなっていない。また、日本に住んでいる外国人に、地方選挙権を認めるかどうかといったことも、課題になっている。

これからの日本は、ますます多文化社会が進展していくと予想される。そのなかで、異なる文化をもった人々に対して差別や偏見をもたず、共存、共生していくことのできる、心の「内なる国際化」が求められている。国内の多文化社会の理解をはかるために、幕末の開港以来、常に日本と外国との窓口であり、外国人も多く住む横浜をフィールドに、多民族化の歴史や移住・移民について調べ、体験する選択社会の学習を計画した。この資料館で日本から海外に出ていった人々の歴史を学び、また研修で日本を訪れている南米の日系人の方との交流も行うことが可能である。

この学習のように選択社会科や総合的な学習の時間で集中的に学習を進めることもできるが、地理的分野の日本の人口の特色で在日外国人の集住地域について学習したり、歴史的分野において日本から移民を送出した時期やその背景、戦中戦後の日系人の様子を学習したり、公民的分野において、多文化共生社会の学習や在日外国人の人権など、従来の社会科学習の中で分散させて学習していくことも可能である。

## 6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>■横浜を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市在住の外国人の実際をデータや資料などから知る。</li> <li>・横浜中華街の歴史と概要を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区別外国人登録人口の資料を用意する。</li> <li>・横浜中華街発展会協同組合のHP、横浜中華学院校長の講演資料等を用意する。</li> </ul>
資料館見学 6時間	<p>■フィールドワークに出よう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 中華街見学 ・外国人集住地域 チャイナタウンの文化</li> <li>2 横浜開港資料館見学 ・外国人居留地の誕生 横浜港の歴史</li> <li>3 海外移住資料館見学                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の海外移民の歴史 海外の日系人</li> <li>・日系人研修生との交流</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食をJICA横浜の食堂でとり、日系移民と関わりが深い国のメニューを体験することもできる。</li> <li>・見学する際、解説よりも実物・展示物をよく見るように指導する。</li> </ul>
事後学習 2時間	<p>■パネル・レポートの作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめの活動としてパネルやレポートを作成する。自分の好きな方法を選択させる。</li> </ul>



## 7 評価

### 事前学習

- ・日本人移民の歴史的経験を理解できたか。（言動・行動観察・記述）

### 見学

- ・見学した内容などから学んだことや考えたことをまとめ、表現することができたか。（発言・記述・作品）

### 事後学習

- ・資料館を見学したり、日系人の方からの話を聞いたりする活動に主体的に取り組んだか。（言動・行動観察・記述）
- ・多文化社会に生きる自分のあり方を考え、どうしていったらよいか考え実行しようとする。（言動・行動観察・記述）


## 8 授業づくりのための参考資料

- ・庄司博史編著『多みんぞくニホンー在日外国人のくらしー』（国際民族学博物館、2004年）
- ・横浜中華街発展会協同組合ホームページ（<http://www.chinatown.or.jp/>）
- ・伊豫谷登士翁『グローバリゼーションと移民』（有信堂、2001年）
- ・小倉充夫・百瀬宏編『現代国家と移民労働者』（有信堂、1992年）

（鈴木雄治）

## トランクの中に入れて持って行ったものは何か

— 携行品から移民の思いや希望を読み説く —

Key word  移民の七つ道具・旅行用トランク・移民船「ブラジル丸」・共感的理解

### 1 展示および資料館との関連



- ・移民の七つ道具
- ・旅行用トランク(写真)
- ・絵葉書「われら新世界に参加す」
- ・移民船「ブラジル丸」
- ・証言映像（戦前・戦中・戦後編）
- ・スーツケースキット

◀旅行用トランク

### 2 教科領域との関連性

- ・総合的な学習の時間

### 3 実施時期および総時数

- 時 期：総合的な学習の時間、校外活動時とその事前・事後学習。
- 時 数：指導形態に合わせて弾力的に運用する。

### 4 単元（活動）目標

- ・1868年にハワイやグアムへ移民を送り出して以来、日本人の海外移住は130年以上の歴史をもっている。現在、海外で生活する日系人の数は、250万人といわれる。移住者たちはどんなものをもって渡航したのか。展示されている移住者のトランクの中味を調べ、彼らの必需品や信仰、娯楽などを知る。また、もし自分が移住する場合には、トランクに何を詰めて行くかについて話し合わせ、当時の移民の気持ちを共感的に理解する。

### 5 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

1868年にハワイやグアムに日本人が契約労働者として送り出されて以来、日本から多くの人びとが海外にわたった。現在、海外に居住する日系人は、250万人に達する。日本を離れるに際し、移住者たちは日本への望郷の思いや新天地での希望をトランクの中に詰めた。海外移住資料館にはそんな人びとの気持ちを語ってくれるトランクの山が、「移民の七つ道具」と名付けられて展示されている。

さほど大きくないトランクの中には、パスポート・現金・洗面具・化粧用具・医薬品など現在の旅行者も携帯するものから、農機具や大工用具、農業専門書や現地語の辞書など、新天地での労働や生活の必需品が幅広く詰め込まれている。また、将棋や花札などの日本のゲーム、ラジオ、カメラなど当時の贅沢品、家族の写真や天皇のご真影、御札やお守り、仏像、えびす大黒の像など、多種多様なものが入っていた。これらの携行品からは、移民として旅立つ人びとの、日本への思いや新天地の生活への期待や不安のほか、彼らの社会観や労働観、宗教観など多くのことを知ることができる。また、飛躍を誓い旅立っていく移住者の決意を読みとることができる。

今日の日本社会は、急速に多民族化、多文化化が進行しており、外国人との日常的な接触や交流が増加してきた。そのため、移民を通して日本社会の多文化化や共生について学ぶことの重要性が高まっている。生徒のアジア系の人びとや中南米からの日系人に対する認識を深めるための方法として、日本を旅立った人びとの携行品を通して、移民の故国への望郷の思いや移住先での期待や不安の念を知り、彼らに対する共感的理解を深めることは大切なことである。

## 6 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>■日本からの移住者の記録や日記を読み、どのような思いや希望を抱いて移住したかを知る。</p>	
資料館見学	<p>■展示品の「移民の七つ道具」が入ったトランクを見て、その中に何が入っているかを、絵や写真で記録する。</p> <p>1 川瀬家のトランクの中を調べる。 1931年、川瀬不二代さんは、日本からブラジルの日本人男性のもとへ嫁いだ。川瀬さんがトランクにどのようなものを詰め、ブラジルに渡ったかを調べる。</p> <p>2 他のトランクの中にはどんなものが入っていたかを、絵や写真で記録する。なぜ、移住者たちは、これらの品物をトランクに入れたのかを考える。 [携行品のリスト] ・アクセサリーや裁縫道具 ・医薬品 ・謄写版 ・日本語や現地語の辞書、農業書 ・ラジオやカメラ ・農機具や大工用品 ・家族の写真や天皇のご真影 ・将棋や花札 ・御札やお守り、仏像、えびす大黒の像</p> <p>3 自分が海外に移住するとしたら何を持って行くかについて、スーツケースキットの中から選ぶ。</p>	<p>遠足や修学旅行の一環としての来館であれば、生徒に展示品を自分の旅行カバンの中味と比較させ、移民の携行品に対する興味・関心を高めるようにする。</p> <p>川瀬さんの携行品には、以下のものが入っていた。 草履、裁縫道具、浣腸、傘、バリカン、簡易カイロ、風呂敷など。</p> <p>写真撮影が許可されているので、トランクの中味を写真に撮って記録し、事後学習に活用する。</p>
事後学習	<p>1 資料館で撮影した写真や記録メモをもとに、トランク内の携行品の一覧表を作成する。一覧表をもとに、トランク内の携行品から分かったことをクラスで話し合い、感じたことをレポートとしてまとめる。</p> <p>2 もし自分が海外へ移住するとしたら、トランクにどんな品物を詰めるかを考え、携行品の一覧表をレポートや絵で示す。また、その理由を説明する。</p>	

## 7 評価

### 事前学習

- ・ハワイや南北アメリカに移住した人びとの記録や日記を読み、移民の移住への思いや希望、不安について理解できたか（感想文、クラスの話し合いでの意見）。

### 見学

- ・トランク内の携行品の一覧表を作成し、移住者がそれらのものをトランクに詰めた理由について、共感的に理解できたか（写真、見学ノート）。証言映像（戦前・戦中・戦後）を視聴し、移住の動機や移住先への旅の様子について、記録することができたか（記録ノート）。

### 事後学習

- ・トランク内の携行品リストの作成を通して、移民の移住先での労働、生活、信仰や故国・日本についての気持ちを共感的に理解できたか（話し合い、レポート）。海外へ移住すると仮定した場合、トランクに詰めるものについて絵やレポートの形で表現し、その理由を説明できたか。また、移民の旅や移住先での生活や故国・日本への気持ちなどを追体験的に考えることができたか（話し合いでの意見、作成した絵やレポート）。

## 8 授業づくりのための参考資料

- ・絵葉書「われら新世界に参加す」（海外移住資料館作成）

（田尻信壹）